



河小だより

ポプラ

No. 10

平成28年12月20日号

佐渡市立河崎小学校

『足りる・足る』を知る

「お願いばかり・現状に文句ばかり言っている私の反省」の巻

校長 濱田 晴明

「今年も家族が健康でありますように！」
「子どもが大学・高校に合格できますように！」
「私の写真集が、もし出版されたら、売れますように？」など。
毎年、濱田家は家族そろって二年参りへ行き、お願い事をします。
その際、お賽銭に5円玉や50円玉を出すのですが・・・。



何年か前、二年参りをしている時、思ったことがあります。「この場所には、めったに来ない。掃除にも来たこともない。来るときは、いつもお願いするときだけ。しかも、そのお願い事は高望みばかり。そこへもって、お賽銭の金額は少ない。これでは本当に失礼！」と反省。

ある有名な方の本に、「私たちは普段忘れがちだけれど、まずお参りに行けるという普通の生活に感謝すること。普通の生活を送れているというのは、ものすごく幸せなこと。必要なものはある程度満たされている（『足りている』）ことを振り返ること。だから、お参りをするときは、『足りている』ことに『感謝の気持ち』を伝えることが重要」という意味のことが書かれてありました。

これを読んで、猛反省。最近では、「今年も、家族でお参りに来ることができました。感謝申し上げます。」とお参りするようになりました。（お賽銭も、少しだけ値上げし、100円玉になりました??）

ご飯を食べて、「お腹いっぱいになって幸せだな～！」と言えれば『足りる』を知っている人。「なんだ！？こんなのは、おかずじゃない。私は〇〇が食べたいのよ！これじゃ満足しない！」と言うのは『足りる』を知らない人。子育ても同じ。私の反省ですが、子どもが生まれたときは、五体満足であったことに感謝をしました。しかし、それが、「早く歩けるように。」「英語がしゃべれるように！」など、その後、我が子のためと称し、どんどん子どもに対し高望みをしたり、子どもがやりたくない習い事を勧めたりしました。その結果、子どもを苦しめてしまうことになり、猛反省。

最近では、「自分の子どもじゃないか。トンビはタカを生まない。学校にのびのびと行っているじゃないか。それだけで感謝。」と『足りる』を知るようになりました。

『足りる』を知らない人は、今を感謝せず、今ないことを際限なく追いかけてまわすことになること。そして、自分や他人を追いつめていることに気付かなくなるということ。もちろん、『足りる』を知らないことを全否定はしません。なぜなら、「もっと今より快適に暮らしたい。」と考えたから、クーラーや洗濯機などが発明されたからです。いずれにしましても、『足りる』を知り、まずは今を感謝し、心豊かに暮らしませんかということです。いかがですか。

なお、お願い事は「すでに叶ったように言うのが良い。」と聞いたこともあります。（例えば、「私の写真集が売れました、感謝します。」というように。）私は、毎日の朝夕に、神棚などに向かい、「河崎の子ども、保護者、地域の方々、教職員が幸せです。感謝します。」と、お願い事が叶ったように言っています。お願いの効果はいかかがでしょうか？先月の学校だよりの『グリット（やり抜く力）』ではありませんが、4年前から始めたこのような習慣を、今後も続けていきます。



最後になりましたが、本年も学校のためにいろいろとご協力をありがとうございました。河崎の皆様にも、感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。

※参考資料：齋藤一人「齋藤一人塾 寺子屋講演会1 心のみそ汁スープ（笑）」